

四極会 寄附講義「会社研究」令和3年度 第10回目

令和3年6月23日(水) 13時10分

講師 株式会社 オーイーシー

代表取締役社長 加藤 健 氏

テーマ 「デジタル時代の今と未来について」



いま何が起きているか。これから何をなすべきか。

このことを学生諸君に伝えたいとの講師の思いから、上記のテーマで講義がありました。

的確な時代認識をもとに、これからの技術革新の進め方について貴重なお話をさせていただきました。(オンライン講義)

概要は、次のとおりです。

第1章 弊社のご紹介

○株主は、大分を代表する企業が名を連ねている。最初は、これらの企業が共同で電算処理をしようということで発足した。

○サービス体系

・ソフトウェア開発サービス ・AI・IoT 活用支援サービス ・ドローン活用支援サービス ・豊の国 IaaS サービス・ネットワーク構築サービス ・データエントリーサービス ・ハードウェア販売保守サービス ・技術者派遣サービス等

幅広いサービス分野にまたがって、民間企業や地方自治体など幅広い顧客にサービスを提供している。

大分の企業であるが、九州でもトップクラス、日本全国でもその名が知られるようになった。

第2章 私たちの現実世界は

○IMD「世界競争力年鑑」2020年総合順位で見ると、日本は34位。シンガポール、香港、台湾、中国、韓国、マレーシア、タイなどアジアの国々にも抜かれて下位に後退している。新しいものを生み出す力が落ちており、危惧している。

競争力の企業ランキングでもGAFGAが台頭し、かろうじてトヨタが43位に残っている状況である。

○デジタルランキングも2020年27位と落ち込んでおり残念な状況だ。特筆すべきは、中国の深圳であり、デジタルの力でシリコンバレーを抜き、ものすごい勢いで発展している。また、先ほどの世界競争力ランキングトップのシンガポールも見逃せない。何をやるにしても動きが速い。物事がなかなか決められない、進まない日本とは歴然の差がある。

○我々を取り巻く環境と取組

日本で大きな課題は少子高齢化。技術者不足の要因でもある。また、災害は激甚化し、さらには、パンデミックも発生し、難しい時代となっている。

この中からDXというキーワードが出てくる。

いろいろな新しいテクノロジーを使ってDXを推進していかなければならない時が来ている。金融、自動車、自治体などあらゆる業種がDXを必要としている。

○我々が生きている今の時代とは??

・昭和の時代 ゼロから復興し、高い経済成長を成し遂げた。

その基盤はよく学び、よく働いた日本人の勤勉さである。

・平成の時代 新しい価値を世界に送り出すことができず、創る国から作られたものを使う国に転落。停滞を続け社会的弱者が急増、国全体が貧しくなっていく。

- ・令和の時代 再浮上するためには、新しい価値の創造=DX(デジタル トランスフォーメーション)の推進が必要。それも単独ではなく、共創(いろいろなところが力を合わせ、強みを持ち合って共同開発すること。)が大切。国内で競争している場合ではない。

○DX デジタルトランスフォーメーションの加速

DX とは、デジタル技術が進化し、人々の生活をより豊かにすること。既存の価値観や社会の枠組みを根底から変えていくデジタル革命の大波と理解されている。

AI やビッグデータ、IoT、ロボットなど新技術を活用してDX を推進していく。

○今、この時代に起こっていること コロナで加速!

あらゆる企業がDX 企業に生まれ変わっていく。そのままでいられる企業は存在しない。官公庁、自治体もDX で行政改革が加速する。

大分県もDX 推進本部会議を立ち上げ、本部長に知事が就任しDX を推進することとしている。

経済学部の子生にとっても、今後、このDX とは無関係ではいられないだろう。

○DX テクノロジーとは何か? 何が世界を変えていくか?

DX を推進するテクノロジーは

- ・コンピュータの加速(量子コンピュータ等) ・クラウド ・セキュリティ(情報データの保護) ・ビッグデータ ・AI(デーブラーニングの実用化) ・IoT(世界中のデバイスのデータを接続) ・5G(モバイル高速通信) ・ドローン ・自動運転 ・宇宙ビジネス などである。

このような技術が世界を変える。日本が世界に出ていくためにはこのような技術が欠かせない。

第3章 弊社のDX への取組

○DX ・SDGs への取組

SDGs とは、SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS の略であり、2030 年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標のことである。

いずれも社会の中で重要であり、DX の取組みがSDGs の目標とつながっていく。弊社においても医療、教育、公共施設、環境など様々な分野でのパッケージシステムを開発している。自治体も企業も共通の項目として取り組む必要がある。

○DX 人材の育成

- ・E 資格/G 検定 ・デザイン思考 ・AI エバンジュリスト ・DX 検定 ・AWS(ソリューション アーキテクト アソシエイト) ・情報処理 ・データサイエン

ス・コンサルティングなどのいろいろな分野の資格があるが、スペシャリストの輩出がDXを推進していく。理系文系関係なく資格を取得を目指している。

○イノベーションオフィス

OEC DX Lab(ディーエックスラボ)を2020年5月11日に開設した。同じ敷地の別の個所に設置している。大分におけるイノベーションの発信地として、斬新で遊び心のある働きやすいオフィスが誕生した。

第4章 弊社のDX取組事例

専属の組織として、DX推進部を設置した。AI/IoTなど、最新技術を用いて様々な業界で取組を展開している。

○AI

- ・遺失物管理システム(落とし物に特化した独自AIを搭載した遺失物管理システムをクラウドで手軽に利用できるサブスクリプションサービス)
- ・駐車場利用状況管理システム(AI車両検出技術を用いてカメラ画像から駐車場の詳細な利用状況(空・満)を利用者に提供)
- ・粗大ゴミ画像認識API(ディープラーニングを利用した粗大ゴミの画像認識API)
- ・大分大学との共同研究による「光センシング」技術を用いた病理診断支援装置の開発
- ・ヘルスチェッカー(画像によるメンタルヘルスチェック)

○AI・IoT

- ・学生の成績や履修情報から習得単位と卒業見込みを予測
- ・精神科電子カルテのテキストマイニング

○IoT

- ・介護施設におけるタグアシスト
- 臨床診断システム(土壌分析と作業体分析を併せたシステム)
- Drone DUCT(ドローン飛行場所管理・周知ツール)

第5章 イノベーションワークショップ

デザイン思考とは、デザインに必要な思考方法と手法を利用し、問題解決するための考え方であり、ぜひ学生の皆さんにも勉強してほしい。

大分大学とオーイーシーの合同で学生アイデアソンを企画した。

協賛企業3社から提供されたテーマについて、各チームがアイデアの創出とプロトタイプを作成を行い、審査員の前でプレゼンテーションを行った。協賛

企業からは、自分たちが絶対思いつかないようなアイデアが出てきたとの声が寄せられた。

第6章 終わりに

日本らしい繁栄の在り方、幸福の実現をこの令和の時代にどう創出していくか。

そのためには、情報過多の混沌とした世の中であるが、まず、今起きていることをしっかり見定めること。そして自分にふさわしい場所を見つけること、これからの時代を生き抜くためのスキル、考え方を学ぶことが大切である。

キーワードはDX。これが日本の支えになる。

現在、デジタル人材について各企業の奪い合いが激化している。そういう勉強が必要だ。

「自分の生きる時代は選べない その時代に挑戦する」

このことを学生諸君にメッセージとして送りたい。

質疑応答

○日本らしいDXの推進とは？

日本としてどのように取り組むのか十分な議論が尽くされていないと思う。これだというものが今後議論されていくだろう。

○学生生活をどう過ごしてほしいか？

世の中のことを広く知っておくこと。勉強だけでなく、体験し見聞を広めるため、今しかできないことをやっておくこと。

社会に出たらいろんな人と会わなければならない。そういうときのため少しでも見聞を広めておいてほしい。

いろいろなことを知って社会に出るのは全く知らずに出るのとまったく違う。

○オンラインについて

オンライン、オンデマンドは会場に行かなくてもしっかり勉強できる。研修等に活用しており、使いようによってはかなり有用である。

以上